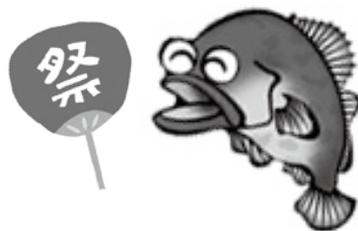


まちの わだい

My Town Topics



クエの季節がやってきた —クエ・フェア開催—



10月19日(土)、九絵の町づくり推進実行委員会(山田理司委員長)がクエのまちPRイベント「クエ・フェア」を開催。多くの観光客が県内外から訪れました。

今年も開場前からクエ料理を求めて、食券販売所には行列ができるなど大賑わい。日本一のクエ鍋や、クエ飯、クエ唐揚げを受け取ると、早速テーブル席で名物を味わっていました。また、9月に茨城県龍ヶ崎市で開催された全国コロッケフェスティバル2019で特別賞(龍ヶ崎市長賞)を受賞したさばコロッケも販売。本場の味を求めて、大勢のお客さんが訪れていました。

ステージでは、和歌山県住みます芸人「わんだーらんど」のトークショーや、シンガーソングライター「さつきのあき」さんによるライブショーなどが行われ、クエの解体ショーでは、およそ31kgのクエの巨体が圧巻の包丁さばきが披露されました。他にもクエの重さ当てクイズ、ビンゴゲームなどで、大いに盛り上がりました。

最後には、もち投げを行い、来場者はクエ尽くしの一日を堪能しました。

秋の実りを収穫 —小学校で稲刈り体験—

刈った稲を運ぶ児童(比井小)



9月5日(木)、比井小学校(古川悟校長)の2年生と5年生の児童ら17名が、皿山守さんら地元農家の方の協力のもと、西下亨さんの田んぼを借りて稲刈りを体験しました。

児童らは、農家の方から鎌の使い方を教わった後、手分けして稲を収穫。児童らは「稲刈りはしんどいけど、楽しい」と慣れない鎌を使いながら、懸命に稲を刈り入れました。

今回稲刈りをした田んぼは、5月に同児童らが田植えをした場所。収穫したお米は、キヌヒカリで150kgほど見込めるとのことで、11月に開催予定の比井小祭でカレーに使うなどするそうです。

内原小学校(川端浩次校長)では10月9日(水)に稲刈りを体験。酒井精さんの田んぼを借りて、6月に田植えを行った稲を収穫しました。

当日は5年生39名の児童が参加し、酒井利夫さん、山崎進さんら地元農家の方の協力のもと、稲刈りが行われました。はじめに山崎さんから鎌を使った稲の刈り方や稲の束ね方などを教わった後、児童らは手分けして収穫。束ねた稲をみんなで運んで脱穀まで行いました。

収穫したのはもち米で約100kgの収量が見込めるそう。12月にはこのお米を利用して餅つきを行う予定です。

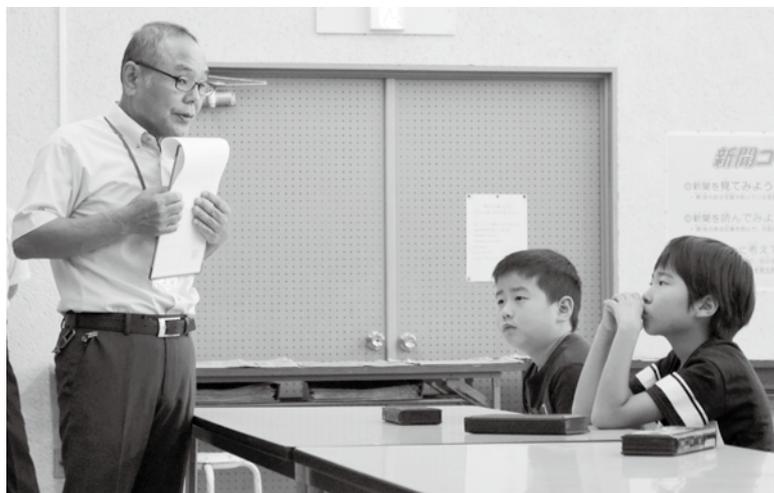


懸命に稲を刈る様子(内原小)

いじめについて考えよう —比井小・人権教室—

9月26日(木)、比井小学校(古川悟校長)にて、人権擁護委員の塩崎真さんらの協力のもと、人権教室が開催され、3、4年生の児童ら9名が授業を受けました。

はじめに、塩崎さんが「みんなが仲良く楽しい学校生活を送れるよう、先生たちと協力して活動しています」と人権擁護委員について説明。その後、児童らはいじめを題材にしたDVDを観て、いじめを受けた人やいじめをした人の気持ちに思いを巡らせ、感じたことを発表しました。最後に塩崎さんは、「困ったことがあれば、一人でかかえこまずに先生や家族など、大人に相談してください」と話していました。



塩崎さんの話を真剣に聞く児童ら